



福島市田沢字寺ノ前（桜台経由医大行き「寺ノ前」バス停、駐車場完備）公開
 田沢地域活性化推進協議会
 ☎024-548-4039（会長：丹治宅）



平成生まれの
 ほっこりかわい
 かやぶき屋根

長秀院参拝者駐車場

平成29年3月、宿根草を主体に季節の花とハーブが楽しめるナチュラルガーデン（約2,000㎡）の一角に完成した東屋



木材は寄付、市内の建設会社と大内宿の屋根葺き職人の皆さんの協力で完成した東屋。伝統工法による木組み、職人の手で切り揃えられたかやぶき屋根の美しい軒は見事

福島市田沢地域活性化推進協議会の皆さんが事業の1つとして取り組んできたのが、地区の中心部に完成した東屋です。ナチュラルガーデンのシンボルとなる東屋は、昔懐かしいかやぶき屋根にしたいと、昔の農村では当たり前であった地域の助け合いの精神「結い」を復活させ、カヤ刈りから田沢地区一丸となって完成を目指しました。「足かけ4年。カヤ刈りと屋根葺きには苦労しました。地域に根付く結いの精神を次世代につないでいきたいと思っています」と同会会長の丹治庄衛さん。東屋ができるから花を愛でにくる人が増えているそうです。季節の草花に囲まれて、かやぶき屋根の下で一息ついてみませんか。

長秀院 ナチュラルガーデン 東屋 長松亭

四方葺きおろしの真新しいかやぶき屋根をのせた東屋ができました



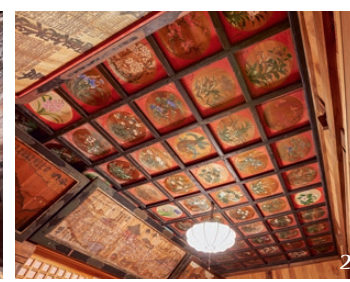
（特集）心に響くふくしまのかやぶき屋根

江戸時代から
 変わらない奇跡の風景

礼堂・中堂・奥之院からなる観音堂。建て物に威厳を持たせる唐破風と千鳥破風を入母屋造りの礼堂正面に設けている



1/大仏様木鼻。獅子鼻と猿鼻を対に礼堂軒下の左右にある。木鼻は木の先端という意の「木端」が転じたもの 2/四季の草花をモチーフにした50枚の格天井がある礼堂。大福寺観音堂も奈良の興福寺南円堂も三十三観音第9番札所というご縁で明治14年、地域の人々が奈良を詣でた様子を描いた額も奉納されている



福島市大笹生字中寺5
 公開（建物内部の見学はお問い合わせください）
 大福寺 ☎024-557-6215

大福寺観音堂

大福寺観音堂は福島市西方のフルーツライン沿いにあり、江戸時代から地域の人々の安寧を祈り続ける古刹です。

信達三十三観音第9番札所「鯉返り観音」として親しまれてきた大福寺観音堂は、江戸時代中期の建物と言われています。観音堂は一般的に単独の建物ですが、こちらは神社の拝殿・幣殿・本殿を思わせる構成で神仏習合の名残りがうかがえます。三方（礼堂の正面と両脇）に破風を配した、この珍しい形状のかやぶき屋根は、県内ではこちらの礼堂だけになってしまったそうです。正面の唐破風は、屋根に積もった雪が唐破風の中央から左右に分かれて滑り落ちることから、参拝者を守るという機能もあるとか。住職の熊坂祐弘さんは、長く維持していきたいと願いつつも頼りにしてきた屋根葺き職人の方が一昨年亡くなられたこともあり、先々を思い悩むときもあるそうです。「五穀豊穡、火伏、縁結びと地域の皆さんが心のよりどころとしてきた場所ですので、なんとか維持したいと思っています」と熊坂さん。協力の輪が広がりますように。

かやぶきという文化の継承

以前、福島市民家園のかやぶき屋根を見たお子さんの「ハリネズミみたいでかわいい」という言葉が忘れられません。古い建物は、人の心を素直にさせる何かを持っているようです。これを残していくためには技術が必要と、会を昨年立ち上げました。かやぶきは、カヤの刈り方や結び方一つとっても特別な方法があり興味がいけません。深く学びながら市内に所在するかやぶき屋根の修復、維持管理などに尽力できるような会に育てて行きたいと思っています。



福島市かやぶき文化伝承会
 会長 渡部 司 さん

歴史ある建物を
 市民の力で
 残していく

※1 その昔、八反川水源の湧水に正観音を祀り開基創建されたお堂の周辺で、川を上ってきた鯉が観音様のご威光のため引き返したことに由来する。
 ※2 破風…切妻造りや入母屋造りの屋根の妻の三角形の部分。